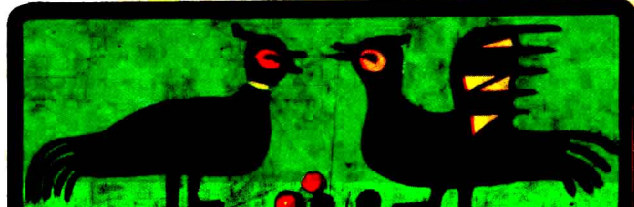
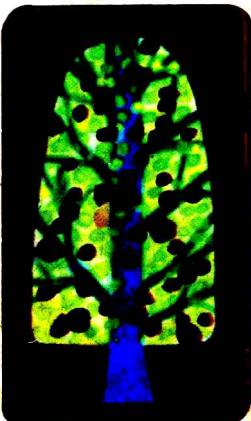


●●●よんでおきたい物語●●●

おかあさんの話

子どもの文学研究会編



よんでおきたい物語

おかあさんの話

子どもの文学研究会編



子どもの文学研究会

よんでおきたい物語 1

ポプラ社 昭和44 (1969)

220p 22cm

内容：1 おかあさんの話

たかいたかい おべんとう 他18編

〔分類〕 908

よんでおきたい物語(1)

昭和四十四年六月 十 日 発行

おかあさんの話

定 価 三百二十円 ©



編 者

こ ぶんがくけんきゅうかい
子どもの文学研究会

発 行 者

久 保 田 忠 夫

印 刷 所

株式会社須藤印刷

発 行 所

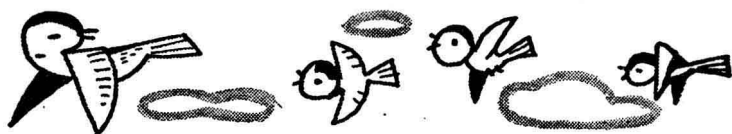
株式会社

ポ プ ラ 社

東京都新宿区須賀町5・振替東京149271番

(石毛製本)

(落丁・乱丁本はいつでもお取りかえいたします)



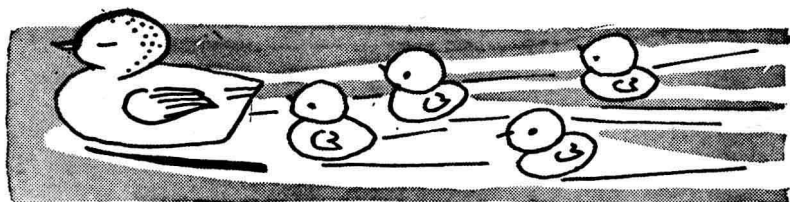
はじめに

おかあさんの おっぱいの ほしい 人が、
まだ いますね。

中学生^{ちゅうがくせい}に なって、大学生^{だいがくせい}に なっても、
もっと 年^{とし}をとっても、おかあさんの おっ
ぱいは いい ものです。

この本の 話^{はなし}からは、おかあさんの なつか
しい おっぱいの においが ただよって き
ます。

いつに なっても、おかあさんの おっぱい
を おもいだして ください。

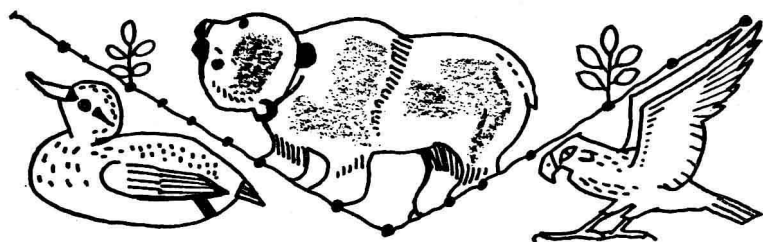




もくじ

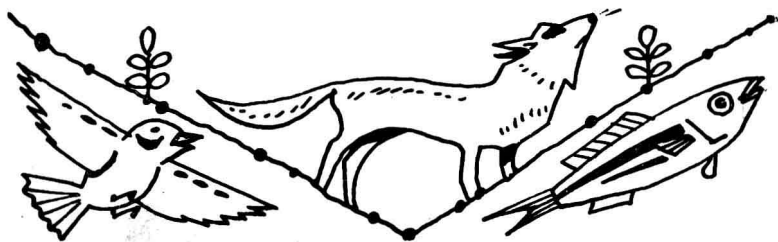
たかい たかい……………
 りっぱなおかあさんすずめ……………
 春の子ぐま……………
 おべんとう……………
 わすれんぼのおとうさまへ……………
 わしの おかあさん……………
 かあちゃん……………
 ひよりげた……………
 おかあさんの つくった ぼうし……………
 おかあさんぎるのかなしみ……………

窪田 富男 訳	吉田 甲子太郎 訳	新美 南吉 訳	坪田 譲治 訳	馬場 義太郎 訳	レフ・トルストイ 作	水谷 まさる 訳	島崎 藤村 訳	川崎 大治 訳	窪田 富男 訳	アラリコ・エリア 作	与田 準一 訳
くぼ	よし	スウェーデン	つぼ	まが	レフ・トルストイ	みず	しま	かわ	くぼ	アラリコ・エリア	よ
た	あ	美	た	が	トルストイ	た	崎	崎	た	コ・エリア	だ
富	子	南	譲	義	作	ま	藤	大	富	男	準
男	郎	吉	治	太	作	さ	村	治	男	訳	一
訳	訳	訳	訳	訳	作	る	村	治	訳	作	い
訳	訳	訳	訳	訳	作	る	村	治	訳	作	ち
訳	訳	訳	訳	訳	作	る	村	治	訳	作	ち
訳	訳	訳	訳	訳	作	る	村	治	訳	作	ち





・おかあさんと先生 せんせい のために……	むくどりの ゆめ……	ね こ……	ひとりですべる……	さかなの かあさん……	あおい スキーぼう……	くまさんにきいてごらん……	きつねと ぶどう……	かたたたき……	コガモの たび……	せみの 子 こ もりうた……
馬 ば	浜 はま	小 お	塚 つか	柴 しば	岡 おか	木 き	坪 つぼ	西 さい	内 うち	島 しま
場 ば	田 が	川 がわ	原 はら	野 の	本 もと	島 しま	田 た	条 じょう	山 やま	崎 さき
正 まさ	廣 ひろ	未 み	健 けん	民 たみ	良 よし	始 はじ	譲 じょう	八 や	賢 けん	藤 とう
男 お	介 すけ	明 めい	郎 ろう	三 さん	雄 ゆう	訊 き	治 じ	十 し	次 じ	村 そん
男 お ……三八	介 すけ ……三三	明 めい ……一五	郎 ろう ……一八	三 さん ……一六	雄 ゆう ……一六	訊 き ……一四	治 じ ……一五	十 し ……一五	次 じ ……一六	村 そん ……一四



編集代表者

馬場正男

はそうてい
くちえい
さしえい

川本哲夫

編集委員

大西貢	加藤馬	野村純三	土田治男	山口正重	松山市造
横山昭作	野村兼嗣	赤坂包夫	近藤晋二	渡辺俊介	桑原三郎



よんでおきたい物語

おかあさんの話^{はなし}



子どもの文学研究会

たかい たかい

与田準一
よだ じゅん いち

かあさま、かあさま、

たかい たかい してよ。

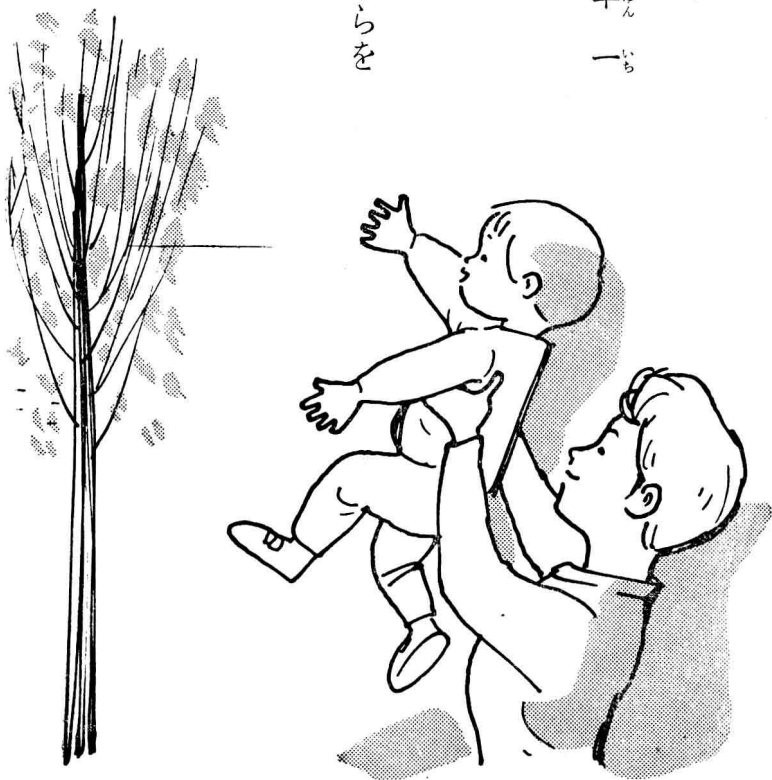
あおい あおい あちらを

見せてよ、見せて。

おやねの あの 空

見せてよ、見せて。

もつとよ、もつとよ、



たかい たかい してよ。

ポプラの むこうを

見せてよ、見せて。

ちらちら あの 海^{うみ}

見せてよ、見せて。

かあさま、かあさま、

たかい たかい してよ。

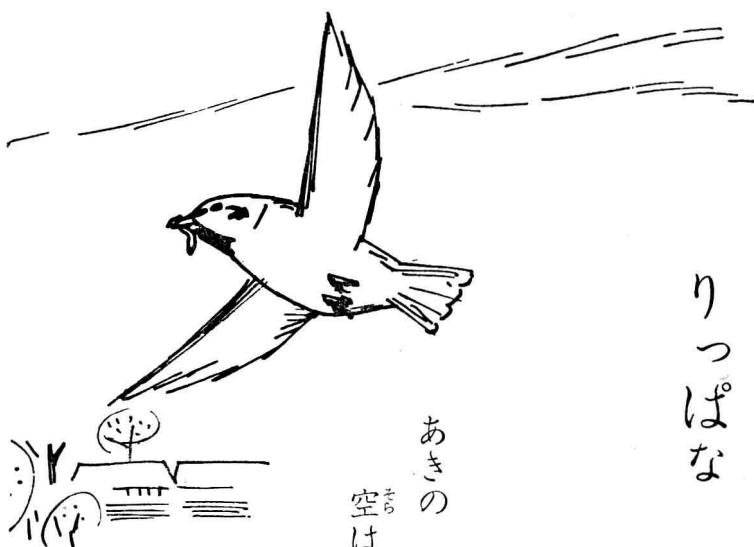
マストを、けむりを、

見せてよ、見せて。

いつかの あの ふね

見せてよ、見せて。





りっぱな おかあさんすずめ

アラリコ・エリア作
窪田 富男 訳

あきの ある あさの ことでした。

空は、あおあおと して、どこまでも はれ

わたって いました。

一わの おかあさんすずめが、口に

いっぱい むしを くわえて、すに

かえって きました。

すに ちかづくど、どうした こ



とか、ほかの　とりたちが　たくさん　チーチー　なきながら、おどろいたようににげまわっています。

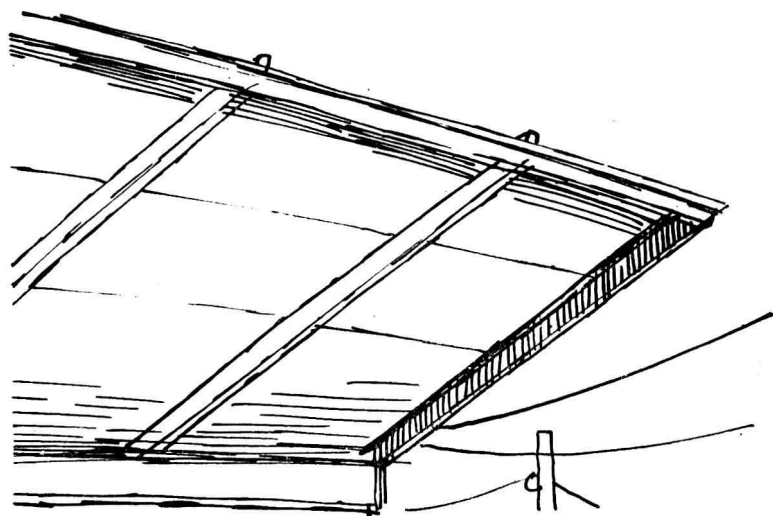
その　なきごえは、

「あぶないから、すに　いっちゃいけないよ。てつぽうをもったにんげんたちが、いっぱい　いるからね。」

と、いって　いました。

おかあさんすずめは、どう　したでしょう。

おかあさんすずめは、こわがりま

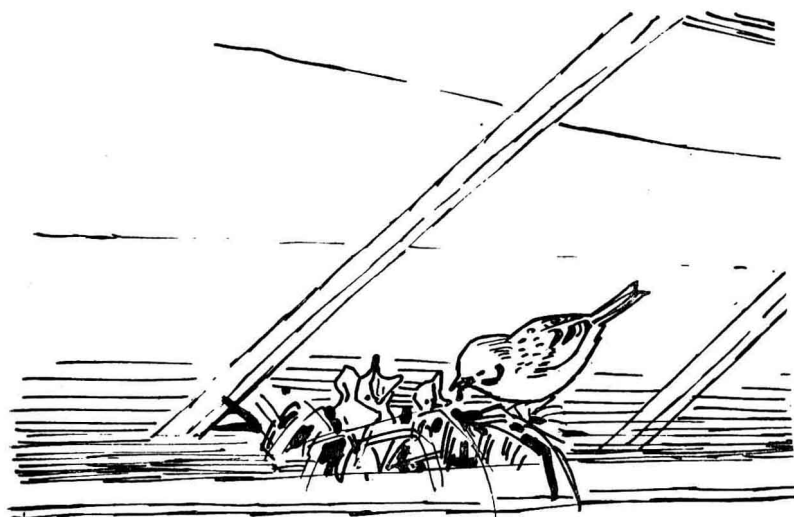


せんでした。と　　いうのは、すの　中^{なか}で、
おなかを　すかせて、こわくて　ぶるぶ
る　ふるえながら、おかあさんの　がえ
るのを　まって　いる、五わの　子^こすず
めの　ことを　かんがえたからです。

おかあさんすずめは、じぶんが　しぬ
かも　しれないのに、それでも　やっぱ
り　とびつづけました。

とつぜん、パン　パン　パン　という
てっぽうの　おとが　きこえました。

おかあさんすずめは、はげしく　は、り、
で　さされたような　いたみを　かんじ



ました。

それでも、さいごの　ちからを　ふり
しぼって、どうとう　すに　たどりつき
ました。

子^こすずめたちは、うれしくて　うれし
くて、チーチー、なきながら、おかあさ
んを　むかえました。そして、おかあさ
んが　もって　かえった　えさを、むち
ゅうで　たべました。おかあさんすずめ
の　あたまから、まっかな　ちが　いっ
ぱい　ながれだして　いる　ことには、
きが　つきませんでした。



その ときです。おかあさんすずめ
は、子^こすずめを おおいかくすように
りょうほうの はねを いっぱいに
ひろげて、ちで まっかになつた
あたまを、こどもたちの うえに た
らすと、やさしい 目^めを どじて し
まいました。 しんで しまったので
す。

ああ、いっぱいに ひろげた おか
あさんすずめのはねが、わたしには
どんなに 大^{おお}きく 見^みえた ことでし
ょう。

春^{はる}の 子^こぐま

川^{かわ}
崎^{さき}
大^{だい}
治^じ



—

くらい ほらあなの 中^{なか}です。

かあさんぐまは、まだ 冬^{ふゆ}の ねむりから、すっかり さめては いませ
んでした。うつら うつらと したままで、

(ぼうやたちは、なにを してるかな。)

と、足^{あし}の まわりを、手^てさぐりで さぐって みました。そこには、かわい

い ニひきの 子ぐまが、ちぢこ
まって いるのです。

ところが、子ぐまは、そこに
いませんでした。

（おや、おや。それでは、また

あそこかしら。）

かあさんぐまは、はなで くんくん
かきながら、やさしい 目を ほそく
あけました。いりぐちの ほうを、じいっと
見ました。

うすぐらい 中に、まあるい 小さな ふたつの
子ぐまは、そこに いたのでした。 かげ。ああ、やっぱり、

